

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性をこれまで以上に重視をするために、これまでの理念を見直し、その実現に向けて取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図る為、一日の始業前には理念を読み合わせてより理念を深めるようにしている。ミーティングや申し送りでは、その日のサービス提供場面（言葉かけ、態度など）が、理念に反映しているかどうか確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	町内の行事や地域のイベントに、積極的に参加したり、地域の文化祭に各自の作品を出展している。ご家族には、家族会などの機会に紙面にて理念を伝えている。また、玄関に明示し、浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。	○	回覧板を回して近隣との関係を深める様、今後自治会に加入する事を検討したい。また、毎月1回苑で常例法座が開催されるので、実施日前には、近隣に住む方達に呼びかけて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや行事には、利用者とともに積極的に参加している。また、事業所に町内の小学生が遊びに來たり、中学生が福祉体験で來たりし地域との交流がある。	○	地域住民の一員として、自治会等に加入をして、地域の活動（道清掃、公民館草取り等）に参加し役割りを担って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の文化祭に、利用者の日頃の作品を出展にて、事業所での成果を地域に伝えている。	○	今後、地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会を取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を全職員に伝え、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直しのために全職員で自己評価を行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で参加メンバーからの要望や懸案事項について、その経過を報告しサービスの向上に活かしている。	○	今後、運営推進会議において、外部評価で明らかになった課題につて、参加者メンバーから多くの率直な意見を引き出し、改善に向けた具体的な取組みを行って行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にホームだよりを随時送り、ホームの様子をお知らせしている。	○	職員や利用者との交流を図る為、今後、市職員の研修場所として事業所を活用してもらおうよう取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、職員への説明を行い、理解を深めるようにしている。	○	利用者・家族等に「成年後見制度」や「地域福祉権利擁護事業」について情報提供を行って行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について勉強会を開き、職員に理解をし、また浸透できるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に対して、担当を決めないで職員全員で対応するようにして、馴染みを深めるようにしている。異動や離職があっても、利用者に影響が少ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自のサービスについての理解や実践の習熟度等に応じた研修内容を考慮し、受講するように努めている。研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの管理者と電話にて意見交換を行い、職場で行き詰まっている日頃の仕事の悩みを解消し、サービスの質や向上につながるよう努力している。	○	他のグループホームへの見学や交流を図ってきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	以前、職員の食事時はスペースが狭い事務所で摂っていたが、利用者の共同フロアでテレビを観ながらゆっくり摂るようにした。また、日常、職員の話をよく聞き、悩みを把握するよう努めている。	○	今後、職員が利用者と離れ一息入れる休憩室の確保を検討したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や、成果が見えるケアに対してきちんとした評価をし、やりがいや向上心がもてるように配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	副管理者が代わってからは、事例がまだない。	○ サービス利用について相談があった時には、必ず本人に会って、本人の思いや不安を受け止め安心してもらい、また、心身の状態を把握し、信頼関係が築けるように努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	副管理者が代わってからは、事例がまだない。	○ 家族の立場に立って、これまでの苦情や今までのサービスの利用状況などをゆっくり聞き、家族にとって今何に困っているのか、今目の前にしている問題は何か把握していきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	副管理者が代わってからは、事例がまだない。	○ 困っていることや不安なことに対して、できることは直ぐに実行し、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるよう対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	副管理者が代わってからは、事例がまだない。	○ 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、利用開始前に職員が会いに行ったり、事業所に来てもらい短時間でも過ごしてもらい、徐々に馴染みながら、事業所での生活に移っていけるよう支援をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に人生の先輩として接し、昔ながらの生活に技・文化(干し大根作り、まき作り、延べ団子作り、おはぎ作り、しめ縄作りなど)などを教えてもらう場面を多く持っているように場面作りや声掛けに配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には、日頃の利用者の様子やエピソード、本人の思いを伝えたり、家族と外泊・外出した時には、利用者の様子を家族から聞いたりし、情報交換をして、利用者と一緒に支援しているという関係を築く様に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と疎遠にならないように、家族会や行事・本人の誕生日会に誘い、関係が途切れないように留意している。また、生活で必要なもの（衣類・下着・はきものなど）があれば連絡し、持って来ていただくようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者5名のうち3名は、市外出身であるため、なかなか知人・友人等に会う機会が少ないが、併設の事業所（デイサービス・ショートステイ）を利用している場合があるので、その機会にはホームに来てもらったり、会いに行ったりし交流ができるように配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係や力について、職員間で情報を共有し皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りに配慮している。また、関係がうまくいくよう職員が調整役となっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	副管理者が代わってからは、事例がまだない。	○	サービス利用が終了した場合には、サービス利用の間に培われた関係を大切に、地域住民として遊びにきてもらうなどして継続的な付き合いができるよう心がけたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者の希望や意向を聞き、常に把握できるように努めている。また、言葉や行動などからその真意が推し測れない場合には、家族から情報を得て本人の思いを把握している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	回想法を用いて、その人の生活歴やライフスタイルの把握に努めている。また、日々の会話の中で本人の語りや家族・知人等の訪問時に把握するよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の一人ひとりの1日の暮らし方や生活リズムを把握し、それを全職員が共有している。また、その人らしく生活していく為に、できることと必ず援助しなくてはならないことの把握に努める。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向や家族の意見を聞き、また、職員で意見交換やモニタリングを行い、その人らしく生活できるよう介護計画の作成に努めている。	○ 介護計画作成にあたり開催する担当者会議には、家族関係者や本人に参加してもらうよう積極的に働きかけていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年2回介護計画の見直しを行っているが、状態の変化、家族の要望があれば、その都度介護計画の見直しを行うようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。また、ケアの実践・結果をケア記録に記載し、それを基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況変化に対し、同施設の看護師に情報提供を行い、指導を仰いでいる。また、緊急時には、職員または看護師が受診を行い、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が心身の力をできるだけ発揮しながら、生き生きとした暮らしができるよう、身近にある公民館と普段から連絡をとって活用している。	○	本人と関係のあるボランティアへの協力を呼びかけていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の公民館が開催するいきいき健康教室に参加をした。また、2ヶ月に1回、同じ施設で契約している理容院のサービスを利用してもらっている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、関係が強化された。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医が週2回訪問し、定期的に診察していただき、利用者の健康管理をしている。また、医師との連絡体制が24時間対応である。もちろん、本人や家族の同意も得られている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ではないが、認知症の人の医療に熱心で、家族や職員の話をよく聞き、適切な指示や助言してくれる医師がいる。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同施設の看護師が利用者の薬の管理をおこなっており、常に介護職員が看護師に状態変化の情報を入れている。医師への上申を行い、指示を仰ぎ利用者への対応を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、家族や医療機関と情報交換しながら、回復状態等速やかに退院支援に結び付けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営方針として、重度者や終末期の人のサービスを対象としていないが、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、また、日常の健康管理や急変時に対応できるように方針の共有を図っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	契約時に重度化や終末期の状況でのサービス利用は、不可能であると説明している。	○	重度化や終末期の利用者を支えるためには、チームの連携・職員の力量・諸条件を備える必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	副管理者が代わってからは、事例がまだない。	○	移り住むことになった場合、これまでの暮らしのケアの継続が保たれるよう、移り住む先の関係者に対して、本人の状況・習慣・好み・これまでのケアの工夫等の情報を提供し、配慮してもらえるように働きかけていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや申し送りのときには、プライバシーの確保のため、利用者をイニシャルで報告している。また、利用者の誇りや尊厳を守るため、他の利用者の前で目立たない言葉かけや、対応に配慮している。	○	職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調が利用者の誇りを傷つけている場合には、その都度指導している。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者と過ごす時間を通して、利用者の希望・関心・好みを把握し、本人が選びやすい場合作りをしている。(入浴するまでの待ち時間・おやつ・飲み物など)		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方のほとんどが、一日を自分の望む過ごし方を希望されず、利用者同士で同じことをして過ごすことを好まれる。しかし、一日の中で一人で過ごす時間を設け、その人らしい時間を過ごすよう支援している。また、一人ひとりが持っているペースを尊重しながら支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服や下着の着替えは、本人の意向で決めてもらっている。見守りや支援が必要な利用者には、職員が側と一緒に考えるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>利用者が食事をしている間は、職員はサポートする側にまわっているので、利用者と一緒に食事を楽しめる環境づくりを検討していきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>職員の勤務体制により、入浴時間がほぼ固定しているが、夜間に近い時間帯の入浴からまず対応できるように、今後前向きに検討していきたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけたときは、社会性の維持につながるよう、自分の財布からお金を出し、レジで支払ってもらよう支援している。	○	家族等と相談しながら、小額程度の金銭管理が本人でできるよう取り組んでいきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の可能な天候の時には、短時間でも戸外に出かけ、気分転換を図っている。また、利用者の下肢機能に応じて、散歩の距離を考慮している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の思いにそった外出支援は、十分できていない。	○	家族等と相談し、協力を得ながら、本人の思いが実現できるように取り組んでいきたい。また、事業所内でも検討していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から手紙が来たときには、電話で連絡をしたり、本人の状態を見ながら返信を書けるよう支援を行っている。家族・友人・知人からの手紙や電話を快く歓迎している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や本人の馴染みの人達が来たときは、自然な形で歓迎をし、湯茶の用意をし、遠慮なく本人とゆっくり過ごせるよう時間を作ってもらっている。訪問時間は、家族の都合のいい時間帯にいつでも訪ねて来ていただけるよう柔軟な配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は、身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、鍵をかけていない。外に出たくなる利用者の傾向を把握し、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、また、一緒についていくなど、安全面に配慮している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、職員が利用者を見守りやすい位置にいて、利用者の状況を把握するよう努めている。夜間は、教時間ごとに利用者の様子を確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗濯に使用する洗剤や、掃除に使う洗剤は目隠しをして保管しているが、入浴時に使用するシャンプーや食器を洗う洗剤は、注意を促しながら所定の場所においている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故には至らないが職員からのヒヤリハットに関する報告記録をきちんと行い、職員間で共有の認識を図り、事故防止に活かしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心配蘇生法の講習を受け、実際の場面で活かせるよう身につけている。また、夜間の緊急時対応については、マニュアルを作成し、職員間で徹底している。	○	定期的に訓練を行い、不安材料がないように取り組んで行きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者とともに消防署の協力を経て、避難訓練・消火器の使い方・消火栓の使い方の訓練を行っている。	○	地域住民の参加、協力を獲ながら避難訓練の実施を検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>予測されるリスクを考え、家族等に対して対応策を説明し、納得と理解をしていただいている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>一人ひとりの普段の状況を職員は把握しており、顔色・行動等の様子が違うと感じた場合には、バイタルチェックを行い、その結果に応じて看護師に相談し、適切な対応をしている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>全職員が薬の内容を把握できるよう、アセスメントシートに記入している。また、薬の変更があった場合は、その都度全職員に報告し、服薬による状況変化を見逃さないよう配慮している。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>一日の食事の中で、便秘予防の食材である（牛乳など）や果物を必ず取り入れている。また、散歩や体操などを行い適度な運動を生活の中に取り入れている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、歯磨き（入れ歯みがき）の声かけを行い、確実に実施している。本人の力に応じて、職員が助言したり介助を行ったりしている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>摂取カロリーや栄養バランスは、栄養士の作成する献立で管理している。一人ひとりの毎回の食事量のチェックも行っている。また、一人ひとりの摂取総量や水分量を全職員が大まかに把握しており、常に意識しながら関わっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する、それぞれのマニュアルを作成し、全職員で学習し、対応策としての準備もしている。食事前・おやつ前・掃除のあとの薬用石鹸での手洗いとウェルパスで消毒を実施している。インフルエンザの予防接種実施やイソジン薬でのうがいをしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、夜に布巾・まな板の漂白を行っている布巾は、漂白後、天日に干すため交互に使用している。月2回（1日と15日）に、冷蔵庫内の掃除を実施。冷凍・冷蔵庫のないの在庫を常にチェックし、食材が古くならないように、無駄なく使用するようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲に、グループホームの位置が分かりやすいように、目に入りやすく、また、アットホーム的な看板を設置している。また玄関入り口にも看板を設置している。玄関先には、プランターや花を生けたり、庭先には植木や花壇を作り、明るい雰囲気になるよう努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・食堂には、季節に応じてレイアウトしている。（季節の花・ゆず・栗・みかん・雛飾り・クリスマスツリーなど）居心地のよさが感じられるように、廊下には植物を置いたり、壁には全員が写っている写真や昔懐かしい草履を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ソファやこたつを置き、居心地の良い空間をつくっている。外の廊下に腰掛を置き、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、自分で作った作品をタンスの上 に置いたり、花瓶に花を飾ったりして、居心地のよい 居室作りに取り組んでいる。また、本人が会いたい と思っている人や大切に思っている人の写真を飾ったり している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度調節は、温度計で把握したり、職員の感覚だけで なく、利用者に直接聞いたりして調整している、ま あ、空気のだよみがないように、直接窓を開けて行っ たり、換気扇を使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	物干しの高さは、利用者が干しやすい高さに工夫して いる。トイレ・廊下には手すりが設置してあり、ま た、浴室には浴槽のふちに手すりの設置と利用者の状 態に合わせて使用するシャワーチェアを置いている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	汚物処理場が、トイレと同じ空間にあるため、トイレ と間違えないように蓋をして混乱をふせいでいる。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	庭に畑のスペースを確保し、利用者がいつでも関われ るようにしている。玄関先にはベンチを置き、利用者 が涼んだり日向ぼっこができるように工夫している。 また、庭先にテーブルと椅子を置き、食事やお茶が楽 しめるよう工夫している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 組 みの 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
項 目		取 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	○	
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	○	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	○	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	○	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者のそれぞれの価値観や生活暦も違っていますが、一緒に生活する中でお互いを認めあったり強調することで、日々の暮らしが安定し楽しく過ごせるようにと職員の関わり方を配慮しています。また、一人で過ごす時間を確保し、心身の活性化につながるように努めています。山間地にあるため、四季おりおりの移り変わりを身近に感じたり、土に触れる機会を作り生活の中で五感を刺激できるようにと努めています。また、利用者の個性、本人の秘められた力を尊重し、かつ、発揮してもらいながら、その人らしく穏やかに暮らしていけるよう、グループホームを「居心地の良い場」であり「第二の家庭」になれるよう、全職員で取り組んでいます。そして、地域の一員として利用者が地域とつながりながら暮らしていけるように、また、実感できるようにと取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
	②利用者の2/3くらいの
	③利用者の1/3くらいの
	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある
	②数日に1回程度ある
	③たまにある
	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と
	②家族の2/3くらいと
	③家族の1/3くらいと
	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように	
		②数日に1回程度	
		③たまに	
		④ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている	
		②少しずつ増えている	
		③あまり増えていない	
		④全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が	
		②職員の2/3くらいが	
		③職員の1/3くらいが	
		④ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が	
		②利用者の2/3くらいが	
		③利用者の1/3くらいが	
		④ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が	
		②家族等の2/3くらいが	
		③家族等の1/3くらいが	
		④ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)